

I. 事業の概要

本学会は、応用物理学および関連学術分野の研究の促進ならびに成果の普及に関する事業を行い、もって社会の発展に寄与することを目的とする。2015年度は、下記の3公益事業を中心に活動を展開し、高い公益性を実現するための施策を実施する。

(公益事業1) 学術講演会、研究発表会、講習会等の開催、及び人材育成・教育、学術社会連携事業

(公益事業2) 機関誌、論文誌、図書の刊行及び調査研究事業

(公益事業3) 表彰、コンクール等の事業

公益事業1: 学術講演会は、春季を東海大学湘南キャンパスで開催する。また、秋季については会場をコンベンションセンター(名古屋国際会議場)とし、セッションの構成等のさらなる改善を図るとともに参加者利便性を向上させる。また、主催、共催の国際会議等や支部、分科会による講演会等を活発に行うとともに、国際化に向けた取組みを推進する。人材育成・教育では、次世代人材育成への支援、科学教育関係イベントの開催などを実施する。学術社会連携活動として、将来ビジョンに関連する普及啓発活動、産業界・学術会議・国内の関連学協会・海外の応用物理関連の学協会との連携・交流を進めるとともに、外部向け広報の充実を図る。

公益事業2: 機関誌、論文誌等の刊行については、「応用物理」、「JJAP」、「APEX」および分科会誌、研究会誌等を発行し、さらなる内容の充実と編集体制の改革を推進する。機関誌「応用物理」では内容の見直しを継続し、基礎から先端技術までタイムリーな記事を提供する。また、広く読者の興味を引く記事を増やしていく。

公益事業3: 本会の目的達成のために必要な事業として、各種表彰事業を実施する。

このほか、各種会員サービスの改善を推進し、新会員サービスシステムの安定運用を行い、定款に基づく第55期役員候補者・代議員選挙については電子投票システムを導入する。処務として、諸規程の整備、また、総会、理事会等を開催する。

1. 学術講演会、研究発表会、講習会等の開催及び人材育成・教育、学術社会連事業(公益事業1)

学術講演会企画事業

応用物理学のカバーする既存分野における多様な角度からの研究発表、ディスカッションの場を提供することと、会員のニーズに応じた融合分野・新分野をタイムリーにキャッチアップし、これらに関係した新規トピックスをテーマとしたシンポジウム、合同セッションの企画を行う。会員サービスとして、より良い発表・参加の環境を提供して、我国の学術、教育、産業に寄与するとともに、国際化に向けた取組みを戦略的に推進することを基本方針とする。

講演会企画運営委員会開催: 6回

1) 春秋学術講演会の開催.

第62回応用物理学学会春季学術講演会と展示会を3月11日から3月14日まで4日間、東海大学湘南キャンパス(神奈川県平塚市)で開催する。講演予稿集DVDのさらなる改善とスマートフォンアプリの充実を図る。一般講演会における招待講演の充実、展示場の場所、展示ブースのレイアウト、インターネットコーナーやポスターセッションのレイアウトを再検討し、展示会の活性化を図る。

第76回応用物理学学会秋季学術講演会と展示会を9月13日から9月16日まで4日間、名古屋国際会議場(愛知県名古屋市)で開催する。英語セッションの充実をさらに進め、Web、プログラム、スマートフォンアプリ、案内表示のバイリンガル化をさらに充実させる。また受賞記念講演を充実させ、集客力アップを図る。海外協定学協会(OSA等)とのJoint Symposiaを継続開催する。

2) 新規事業.

①国際化.

英語セッションの企画・実施に対する補助の充実、見直しを行い、講演会のバイリンガル化をさらに進める。

②投稿件数に応じた大分類・中分類分科の見直し.

一般投稿件数が、100件未満の大分類分科、15件未満の中分類分科は再編・統合を検討する。

③新会員サービスシステムに合わせた電子投稿システム.

新会員サービスシステムと電子投稿システムを連動させ、会員の利便性の向上を図る。

④プログラム編集のシステム化。

従来、入力を手作業で行っていたプログラム編集をシステム化し、プログラム公開を1週間～10日早めること、また投稿締切を遅くすることを可能にする。

⑤動画配信。

特別講演や招待講演の動画配信を試行し、参加者以外でも講演を聴講できるシステムを作る。

3) 事業運営。

事業経費の収支改善の検討を継続する。会場選定方法および講演会開催方法の見直しを検討する（春季会場の固定化、秋季開催についても会場設定の方式などについて調査を開始、適正講演数、口頭発表とポスター発表の比率、展示会場、外部委託、会期等）。展示会の企画・運営を充実させ、サービス向上を図る。PosterAward、フォトコンテストを継続開催する。また託児室の運営を継続する。

4) 講演奨励賞。

講演奨励賞受賞記念講演を実施する。奨励賞受賞者とフェローとの懇談会を実施する。

国際学術交流事業

海外機関との連携による下記の事業など、本会の国際化に向けた活動を立案・実施する。

1) 海外学会とのジョイントシンポジウム開催。

2) 学術講演会の海外講演者（招待講演者および学生講演者）への部分的旅費サポート。

3) 海外著名人来日時国際ワークショップの適宜主催。

4) 2015 International Conference on Solid State Devices and Materials (SSDM2015), 2015 International Microprocesses and Nanotechnology Conference (MNC2015) の取りまとめ。

5) 春季・秋季学術講演会での海外研究者交流会の実施。

6) 外国人チャプターの設立の検討。

7) JSAP Bulletin 配信の検討。機関紙編集委員会と連携して行う。

8) 会員向け科学技術英語セミナーの開催。

9) IOP Publishing との提携による講演会附設展示会、機関誌の国際化。

10) 主催国際会議のProceedings 閲覧サイトの構築。

11) AAPS Bulletin への編集協力。

12) 国際展開基本方針の検討（海外学会との連携、MOU 締結）。

13) 分科会・研究会の国際的活動の支援。

会員サービス事業

会員サービス委員会開催：5回

1) 会員相互のネットワーク構築のためのプラットフォームを提供する。

① スチューデント・チャプターの拡大と継続的運営・取組への支援を行う。

② 「キャリア相談会」をはじめとする若手会員向け企画をマネジメントする。

③ 日本在住外国人会員等のコミュニティーの活動を支援する。

④ 男女共同参画事業を推進する。特に、女性研究者・技術者の数を増やし、そのキャリアパス形成を支援すべく「応物女子会（オブジョ）」を中心とした横のつながりを強化する。

2) 会員管理業務に伴う他事業との連携、Web の維持更新。

① Web 等を通し、学術講演会、研究発表会、講習会等の開催及び人材育成、教育事業の広報活動を行う。

② 新会員サービスシステムと講演会受付システム等、諸システムとの連携を行う。

学術・社会連携事業

外部向け広報の充実、産業界・学術会議・他学協会との連携を進める。

「産業界・異分野連携推進」を念頭に、特に産業界への広報活動を充実させる。他学協会との連携を深め、本会が取り組むべき新しい分野創出を検討する。

学術・社会連携委員会開催：2回

1) 学術会議との連携。

- ・総合工学委員会「未来社会と応用物理分科会」公開シンポジウム共催・協力
- ・ICO 分科会「先端フォトニクスシンポジウム」共催・協力

2) 広報用学会パンフレット・ポスター他（Web コンテンツ・販促含）作製。

産業界への広報を中心に会員増加のための案内を行う。

3) 関連展示会への出展による広報活動。

- ・SEMICON JAPAN
- ・PV JAPAN

4) 物理オリンピック、Year of Light2015 への協力。

男女共同参画事業

真に暮らしやすく個々が能力を発揮できる豊かな社会を実現するための一要素として、ワークライフバランスの推進を目指し、応用物理学会における男女共同参画の推進に取り組む。

1) ワークライフバランス実現のための本質的な議論、しくみを含めた学習の機会を設ける。優良企業・先進研究室などのロールモデルや取組みの紹介を企画する。

2) 女性研究者のネットワークの拡充への取り組みと定期的な女子会の開催を推進する。

3) 女性研究者・技術者によるシンポジウムの継続を検討する。

4) 理事・フェローへの女性の推薦と、女性研究者研究業績・人材育成賞（小館香椎子賞）の普及推進を支援する。

5) 外部連携・国際連携に関して、学術・社会連携委員会や外部委員会をサポートして連携を図る。男女共同参画学協会連絡会にオブザーバーとして参加する。

6) 年に数回の男女共同参画委員会を実施する。

教育企画事業

本学会を構成する学・産・官の研究者の効果的協力の下、グローバルかつ長期的な視点に立って活力ある社会を形成できる理系人材の育成・教育のためにリフレッシュ理科教室を含めた科学啓発活動の実行を行う。また、将来応用物理学会を担う人材に対する学会全体の広報活動について検討する。

1) リフレッシュ理科教室および関連科学啓発活動。

学校教育における「物理ばなれ」による日本の科学技術やものづくりの長期的衰退を食い止めるべく、理科教育に技術の視点を導入するリフレッシュ理科教室を中心とした啓発活動を行う。関東地域を含め支部間、および各支部と応用物理教育分科会、さらには他学会、科学館および教育委員会と連携した科学啓発活動を行う。優れた企画の全国巡回やノウハウの共有化による標準化の為に春秋の学術講演会においてFDリフレッシュ理科教室を開催し、事業の一層の充実と効率化を図る。また、これまでの活動で得られた資産の蓄積、管理、活用（会員への提供）について検討する。

2) 将来応用物理学会を担う人材への学会活動全体の広報活動。

将来応用物理学会を担う人材の育成のために、学会活動全体の分かりやすい広報資料作成および作成した資料を活用した広報活動について検討する。

3) 教育企画委員会運営活動。

学術講演会の際及びその他年2回・運営委員会を開催し、活動内容を検討する。

支部・分科会・研究会・新領域グループ

学術講演会、研究会等を実施する。

学会全体として

1) 学術会議をはじめ、国内外の関係学術団体との連携および協力。

- 2) 関連学協会との連携による社会啓発活動推進.
- 3) 日本工学会を通じて、工学系（一部理学系）学協会との情報交換・連携活動への参画.

2. 機関誌、論文誌、図書の刊行及び調査研究事業（公益事業2）

機関誌編集事業

応用物理に関する学術情報、会員にとって有益な情報を提供する月刊機関誌『応用物理』の編集・発行、基礎から先端科学まで、未来が見える生きた情報をタイムリーに提供することを目指す。タイムリーな記事の強化、会員サービスの観点からの記事構成の見直し、読者拡大（会員増強）を目指した施策の考案、国際化・グローバル戦略、相互コミュニケーション型の情報発信、Web版・電子書籍化など電子化事業の促進、編集作業の効率化などを実行する。

機関誌編集委員会開催：8回

- 1) 和文機関誌『応用物理』（第84巻）。
 - ①年間12号（A4判 総頁数1,100頁、月平均92頁、1,100部、毎月10日発行）を編集・発行し、毎月会員に配布する。
 - ②誌面等のデザインをブラッシュアップする。
- 2) タイムリーな記事の強化。
 - ①サイエンスライターを起用し、タイムリーな記事のさらなる充実化を図る。
 - ②国内外の最新的话题をリサーチし記事化する。
- 3) 会員サービスの観点から、記事構成の見直し。
 - ①読者層を絞った新企画を開始する。
 - ②外部記者制度を活用し、多様な情報収集を行う。
 - ③支部、スチューデント・チャプター、分科会、講演会、委員会関連記事の強化を行う。
- 4) 読者拡大（会員増強）を目指した施策の考案。
 - ①日経BP社のWebメディアを活用する。
- 5) 国際化、グローバル戦略。
 - ①留学生のため英語（翻訳）記事を導入する。
 - ②JSAP Bulletin とコンテンツ連携などの協力を行う。
- 6) 相互コミュニケーション型の情報発信。
 - ①会員からのフィードバック欄の強化を図る。
- 7) Web版、電子書籍化など電子化事業の促進。
 - ①完全電子化・Webでの早期公開を実現する。
- 8) 編集作業の効率化。
 - ①編集委員会は原則隔月開催。TV会議システムを導入する。
 - ②編集委員を「解説論文担当」と「一般記事担当」とに分け、企画編集作業の効率化を図る。
 - ③解説論文の編集作業の効率化および内容のさらなる精度向上のため、解説論文担当のスーパーバイザーを起用する。
 - ④閲読は、解説記事はスーパーバイザー＋担当編集委員、一般記事は編集部（事務局）および担当編集委員の責任で行う。
 - ⑤作業合理化のため、投稿規定、編集マニュアル等を見直す。

APEX/JJAP 編集事業

掲載論文の質の向上と編集体制強化などを実行する。

APEX/JJAP 編集運営委員会開催：6回

- 1) 論文の質の向上
 - ①編集委員全体会議や特集号編集委員会議の実施などによる編集委員間の論文採択基準の共通化、および引用文献の適正化などによる論文の質の向上。
 - ②JJAP 特集号企画のヒアリング・審査を通じての選定。

③JJAP Selected Topics in Applied Physics (STAP) 企画の推進.

④JJAP Invited Review Paper 企画の推進.

⑤APEX/JJAP Spotlights の推進.

⑥質の高い論文を集める方策の定常的検討.

⑦IOP Publishing の協力による掲載論文・引用文献の動向調査.

2) 編集体制の強化

①専任編集長制による編集作業の強化.

②Pre-refereeing editor を導入することによる, 事前審査体制の強化 (会長方針).

③編集運営委員長, 副編集運営委員長 (二名), 専任編集長 (正副), シニアアドバイザー, Pre-refereeing editor の役割分担の明確化による編集作業の強化 (同上).

④読者データベースの整備.

⑤読者選定のための Web of Science の導入.

3) 著者・読者に対するサービスの向上

①Thomson Reuters 社による APEX/JJAP への被引用通知サービスの実施.

②物理分野における国際標準の分類コード PACS の付与 .

③招待論文, STAP 論文, 特集号論文の無料公開 (1年間).

④投稿・審査システムの改善.

⑤APEX 掲載決定論文の英文添削の実施.

4) その他

①MRS など海外学会展示会への出展.

②JJAP 特集号関連国際会議への出展.

③IOP Publishing との合同セミナーなどの開催 (講演会).

会員サービス事業

学会 Web の管理・運営, 学会保有電子資産の有効活用, 管理業務に伴う他事業との連携, Web の維持更新.

1) Web 等を通し, 機関誌, 論文誌, 図書の学会刊行物の広報活動を行う.

2) 新会員サービスシステムと IOP 論文閲覧システムをはじめとする諸システムとの連携を行う.

分科会

分科会誌, 論文誌を発行する.

3. 表彰, コンクール等の事業 (公益事業 3)

応用物理学会業績賞, 研究分野業績賞, フェロー表彰, 論文賞, 講演奨励賞, APEX/JJAP 編集貢献賞, 支部表彰, 分科会表彰などの表彰事業を行う.

表彰事業

名誉会員, 功労会員も含めた本会の表彰事業全体の見直しを検討, 名誉会員候補者, 功労会員候補者, 他の学術団体表彰への応物会員の推薦などを行う. また, 応用物理学学術・教育奨励基金によって新しい賞を新設する際には, 応用物理学学術・教育奨励基金委員会と連携する.

委員会組織 (委員会の必要性, 委員数) の見直しや, メール審議による委員会回数の削減 (旅費削減), 定常的な事業経費の削減努力などにより, 年間経費の削減を図る. もともと委員会の開催回数は年に 1, 2 回程度と少ないが, メール審議の徹底を図る.

表彰委員会開催予定: 2 回

1) 本会の表彰関係全体の方針に関する事項.

2) 本会名誉会員候補者の選考に関する事項.

- 3) 本会功労会員候補者の選考に関する事項.
- 4) 本会以外の学術団体に対する本会会員の学術賞および学術助成金受領候補の推薦に関する事項.

4. 管理業務

理事会

定例理事会開催：8回

- 1) 本会の業務執行の決定.
- 2) 理事の職務の執行の監督.
- 3) 会長，副会長，常務理事の選定及び解職.

戦略会議

戦略会議開催：8回

- 1) 学会の中長期的な運営方針の検討.
- 2) 学会運営における課題の整理・検討.
- 3) 学会の経営戦略の策定.

常務理事会議

常務理事会議開催：4回

- 1) 定常的な事業およびその所用経費に関する事項.
- 2) 役員候補者及び代議員の選挙管理に関する事項.
- 3) 本部関係の会議・委員会間の連携・調整に関する事項.
- 4) その他，理事会から委託された事項.

事務局運営委員会議

事務局運営に関する戦略立案・遂行，および職員等の人材マネジメントを行う。

重点施策

- ・会長方針に則した事務局体制構築.
- ・遂行効率化.
- ・国際化対応能力強化.

実施事業

- 1) 学会運営戦略と長期人事計画を元にした，事務局組織体制の最適化.
 - ①事務局運営における業務系統の明確化と，透明性，公正性の確立.
 - ②次世代体制検討のための業務分析：マーケティング.
 - ③リスク管理を視野に入れた事務局組織のグループ化，ジョブローテーションの検討.
- 2) 事務局運営会議と職員との面談による業務実態聴取と信頼関係構築.
- 3) 給与・賞与への人事院勧告の反映.
- 4) 学会の国際化に向けた事務局体制の充実と職員のスキル向上.
- 5) 英会話活用業務機会付与.
- 6) 職員のスキルアップ，研修.
 - ①海外出張に対する適切な計画と実行体制の確立.
 - ②管理者研修への取り組み.
- 7) 職員表彰によるモチベーションの向上.

総務会議

外部との契約締結・変更，規程類の整備，本会主催・共催・協賛事業に係わる事項，総会・代議員意見交換会に係わる事項，表彰に係わる制度の整備と運用等につき審議し，処務を本会事務局・各委員会と連携して実施する。さらなる学会活性

化・会員サービスの向上をめざし、処務を円滑・迅速に進める。

会員サービス事業

会員サービスの拡充と新展開に伴う会員動向管理を行う。会員種別・会費管理・入退会など会員に関わるすべての事項に対して会員サービス向上の観点から戦略的な方針を立てる。また、会員サービスシステムを安定に運用し、セキュリティチェックなど安全・安心のための情報基盤管理を強化する。Web システムの運用管理とともに、マイページの機能充実を図る。また、内外に向けた学会広報の戦略を企画・立案する。

- 1) 会員サービスの拡充と新展開に伴う会員動向管理。
 - ・会員の声を集約・分析する仕組みを検討する。
- 2) 会員サービス拡充のための情報基盤管理強化。
 - ・ Web 上での学術関連情報の閲覧や学会保有資料の利用など、会員であることのメリットを実感し得るサービス提供を他の委員会と連携して進め、会員の定着、新規入会を促進する。特に若手会員向けに、フェイスブック、ツイッターを活用した会員サービスを展開する。
- 3) 日英 Web コンテンツの管理・運営。
- 4) マイページサービスの管理・運営。
- 5) 会員サービスシステムの安定・安全運用。
- 6) 広報戦略の立案・管理。

経理会議

活力ある事業活動とそれを支える安定した財政基盤の確立を目指す。また、公益法人として社会的責任を今まで以上に果たすことができる効率的な経理体制を整え、学会のガバナンスを高める。

経理会議開催：5回

- 1) 学会運営に関わる下記経理業務を遂行する。
 - ①予算策定および管理・決算（月次・年次）を取りまとめる。
 - ②応用物理学活性化支援金等補助金の審査等を実施する。
 - ③公益法人を維持（公益法人認定基準を満たす学会運営および内閣府公益認定等委員会への報告）する。
 - ④戦略会議への協力。
- 2) 支部予算（交付金等）の制度を変更する。

基金による事業

「応用物理学学術・教育奨励基金」「高野榮一光科学基金」などの基金の管理・運営・活用。

II. 処務の概要

1. 定時総会 1 回，定例理事会 8 回，戦略会議 8 回，常務理事会 4 回，諮問委員会 1 回，諮問委員・代議員合同会議 1 回およびその他の会合を開催。
2. 第 55 期役員候補者選挙を実施（電子投票導入）。
3. 第 55 期代議員選挙を実施（電子投票導入）。

III. 支部・分科会・研究会・新領域グループの活動状況

支部講演会，研究会等実施予定回数

支部名称	国際会議	講演会	研究会	技術者育成	教育啓発活動	運営関連
北海道支部		1	12		3	5
東北支部		1	5		4	5
東海支部		2	10	2	8	6
北陸・信越支部	1	1	6	2	3	8
関西支部	1	3	18	1	0	5
中国四国支部		1	12	1	3	6
九州支部	1	1	13	1	2	4

分科会講演会, 研究会等実施予定回数

分科会名称	国際会議	講演会	スクール	研究会・講習会	シンポジウム	教育啓発活動	常任幹事会	幹事会
フォトニクス分科会	1	2	1	1	2			3
放射線分科会				6	2			2
応用電子物性分科会			1	5	1			2
薄膜・表面物理分科会	2			5	2		5	6
結晶工学分科会			1	3	1	1		7
応用物理教育分科会					3	6	2	3
超伝導分科会				2	1	1		4
有機分子・バイオエレクトロニクス分科会	1			4	2	2	4	2
プラズマエレクトロニクス分科会	1			6	2			5
シリコンテクノロジー分科会	2			13	1			2
先進パワー半導体分科会		1	1	2				3

研究会, 新領域グループ講演会, 研究会等実施予定回数

研究会・新領域グループ名称	国際会議	講演会	シンポジウム	研究会	技術者育成	教育啓発活動	幹事(委員)会
量子エレクトロニクス研究会			1	3			2
多元系化合物・太陽電池研究会	1	1	1		1		3
光波センシング技術研究会			1	2			2
ランダム系フォトエレクトロニクス研究会			1	1			2
スピントロニクス研究会			2	1	2		2
シリサイド系半導体と関連物質研究会				2	1		3
次世代リソグラフィ技術研究会		1	1	3			5
テラヘルツ電磁波技術研究会			1	1		1	1
ナノインプリント技術研究会			1	3			3
エネルギーシステム研究会			2	4			4
有機ナノ界面制御素子研究会	1			4			4
励起ナノプロセス研究会				1		1	1
集積化MEMS技術研究会	1	1	1	2			2
埋もれた界面のX線・中性子解析研究会			1	6			2
界面ナノ電子化学研究会			1	4	1		4
磁気科学研究会	1		1	1			2
産学協働研究会							
極限ナノ造形・構造物性研究会		1		3			3
微小光学研究研究会	1			4			
新領域グループ			1	6	3		3
衝撃応用研究グループ			1	5			
重力場応用研究グループ	1						
機能性酸化物研究グループ			1	1	1		2
ナノワイヤ研究グループ				1			4
量子情報研究グループ			2	1			1

分科会誌, 論文誌の刊行予定

フォトニクス分科会	「フォトニクスニュース」の刊行.
放射線分科会	「放射線」の刊行.
応用電子物性分科会	「応用電子物性分科会誌」の刊行.
薄膜・表面物理分科会	「NEWS LETTER」の刊行.
結晶工学分科会	「Crystal Letters」の刊行.
応用物理教育分科会	「応用物理教育」の刊行.
超伝導分科会	「超伝導ニュース」の刊行.
有機分子・バイオエレクトロニクス分科会	「Molecular Electronics and Bioelectronics」の刊行.
プラズマエレクトロニクス分科会	「Plasma Electronics」の刊行.
シリコンテクノロジー分科会	「シリコンテクノロジー」の刊行.
先進パワー半導体分科会	「先進パワー半導体分科会誌」の刊行.